

# 令和元年 不登校・ひきこもりを支援する講演会の報告

## 不登校・ひきこもりの何が問題なのか

～その背景と周囲の対応・わたしたちができること～

令和元年9月8日（日）13時30分から志免町総合福祉施設シーメイト2階研修室において志免町社会福祉協議会主催で「不登校・ひきこもりを支援する講演会」が行われました。対象の家族の方を中心に社協職員・町議会議員・大学生・他地区の行政の職員さんなど幅広く参加されていました。今回は私、ぼちぼちの会会長木村が講師としてお話をさせていただきました。



学校と子どもの関係の関係をもう一度見直すこと。視点の違いが意識の違いになってお互いの理解を難しくしている。視線が変わると見えてくるものが変わる。一番大事なものは子どもが見ているものを理解すること。

学校に来ない子ども（学校や先生から見ると）

学校に行かない子ども（親や周囲の大人から見ると）

不登校生にとっては行けない学校（不登校生の子どもから見ると）

はじめに不登校の現状を説明しました。

### 平成29年度小・中学生の不登校生の現状

文部科学省が平成29年度の問題行動・不登校調査で、1千人当たりの小中学校の不登校（年間の欠席日数30日以上）児童生徒数が、調査を開始した平成10年度以降で過去最多に上ったことがわかった。全学年で前年度を上回り、上昇傾向が続いた。

○小・中学校における長期欠席者数は、小学校72,518人（前年度67,093人）、中学校144,522人（前年度139,200人）。全体では、217,040人（前年度206,293人）である。

○このうち、不登校児童生徒数は、小学校35,032人（前年度30,448人）、中学校108,999人（前年度103,235人）、小・中の全体で144,031人（前年度133,683人）であり、在籍者数に占める割合は小学校0.5%（前年度0.5%）、中学校3.2%（前年度3.0%）、全体では1.5%（前年度1.3%）。

○不登校の小学生は1千人当たり4・8人（総数3万1151人）、中学生は30・1人（同10万3247人）だった。

○不登校の状況では、年間90日以上欠席した児童生徒の割合は58.3%（57.6%）を占めた。90日以上欠席し、出席日数が1～10日の児童生徒は11.2%（7.3%）、出席日

数0日も 3.6% (3.7%) に上り、長期に及ぶ不登校児童生徒が依然多いことが明らかになった。

まる不登校の要因では、不登校の要因を「本人に係る要因」で見ると、「『不安』の傾向がある」、「家庭に係る状況 (31.2%)」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題 (28.2%)」が多い。

そのあと、不登校に関する国や行政の考え方や施策について説明しました。そして不登校の問題点について考えていきました。

一番大事なのは子どもの考え方を理解することなので「不登校の子どもは何に困っているのか」を説明しました。最後にいろいろな場面での対応例を引きながら具体的な支援の方法について説明しました。終わりに「子育てに失敗はない。ただ親の思った通りに育つ子はいない」という話をさせていただき終了しました。

## 【不登校・ひきこもりを支援する講演会】 ～不登校・ひきこもりの子どもの未来にむけて わたしたちができること～

講師：木村素也氏（ぼちぼちの会会長）

38年間、福岡市立中学校の教員として勤務。  
平成13年度以降は福岡市立中学校の管理職  
（教頭・校長）として学校運営にかかわる。  
平成26年3月に退職。  
現在不登校生の保護者の会ぼちぼちの会の  
会長を務める。



参加費無料

【日時】2019年9月8日（日）13:30～15:30

【会場】総合福祉施設シーメイト2階 研修室

【対象】講座内容に興味のある方

ぼちぼちの会は不登校生の保護者の会として活動している、結成15年目の団体です。定例会や学習会、レクリエーションなどを通して、保護者と一緒に子どもの“これから”を考える支援を行っています。今回は、ぼちぼちの会の会長を務める木村素也さんを講師に迎え、不登校・ひきこもりの背景、周囲の対応、ぼちぼちの会の活動の中で見えてきたことなどをお話していただきます。内容に興味のある方、当事者家族で悩みを抱える方、ぜひご参加ください。

お気軽にお問い合わせください。

お申込み先  
志免町社会福祉協議会

TEL : 092-937-3011

FAX : 092-936-9067

Mail : shime@shime-shakyo.or.jp



